

NO	項	行	項 目	意 見 箇 所	修 正 案	補足説明・備考等	対応方針	反映 (○×)	局 名
1	－ 73 頁	3 行目	第3章まちづくりの基本方針 ③総合的な土砂災害対策の推進	「土砂災害指定区域図」とはどのようなものでしょうか？ 都で指定している土砂災害警戒区域等の区域を示した図であれば、正式には「土砂災害警戒区域等の指定の公示に係る図書における土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域の区域図」（単に区域図とも呼んでおります。）だと思われます。	土砂災害警戒区域等の区域図 （等は土砂災害特別警戒区域も含めて読んでいるためです。）		『「瑞穂町防災ハザードマップ」などを活用し、』と改めます。	△	建設局
2	－ 73 頁	行目	瑞穂町防災ハザードマップ	残堀川流域の浸水想定区域、土砂災害警戒区域、過去の水害被害実績、立川断層帯地震の予想震度分布を表示しています。	残堀川流域の浸水 予想 区域、土砂災害警戒区域、過去の水害被害実績、立川断層帯地震の予想震度分布を表示しています。	ハザードマップ自体の右上の欄にも修正案のように表記されている。	『浸水予想区域』に修正します。	○	建設局
3	素 案 － 33 頁	② 2 行目	電線の地中化	国や都の計画のほか、区市町村補助等で「無電柱化」というフレーズを使用しているため、貴町の計画においても統一するべきと考えます。	無電柱化	ほか、 P34（下から3行目） P65（上から2行目） P83（上から4行目） P87（上から3行目） P94（下から11行目） P97（下から7行目） P104（上から11行目） P107（上から4行目） P113（上から16行目） P116（上から4行目） に該当有り	『無電柱化』に修正します。	○	建設局
4	－ 頁	行目	資料5 瑞穂町都市計画マスタープラン 東京都意見照会に係る関係課協議	日時：令和2年11月26日（木） 協議先：東京都産業労働局農業振興事務所農務課【農業振興地域関係】 修正意見等：特になし	日時：令和2年11月26日（木） 協議先：東京都産業労働局農業振興事務所農務課【農業振興地域関係】 修正意見等：町の都市計画部門と農業部門で検討を行っていただきたい。		ご意見として承ります。	－	産業労働局
5	－ 頁	行目	農業振興地域に関する記載について	農業・農地に関する記載すべて	瑞穂町は農業振興地域を有し、農用地区域を設定している。開発や生産緑地制度の導入を本プランに記載するのであれば、町の農業振興の方向性や方策について整理をいただきたい。	区域区分に関する都市計画は瑞穂町の農業に関する土地利用及び諸施策に直接重大に関連する。市街化編入への確実性が明らかになれば、調整の手続きを開始する。	ご意見として承ります。 農業振興計画等の関連計画の改定の中で、町の農業振興の方向性について整理していきます。	－	産業労働局
6	－ 25 頁	21 ～ 22 行目	(3) 圏央道の全線開通を見据えた産業地形成	■ 圏央道に至近な 瑞穂町においても、 その一翼を担う広域的な物流拠点形成が 求められています		都市づくりのグランドデザインP96の表記は、「圏央道の周辺において、災害時の救援活動の円滑化等の複合的な機能を持つ広域的な物流の拠点の整備を促進する」であり、グランドデザインとは異なる「瑞穂町に…求められている」という記載がグランドデザインの記載のように誤解が生じる恐れがあるため	『東京都「都市づくりのグランドデザイン」において、東京湾臨海部の老朽化した物流施設の機能更新が課題とされ、道路、鉄道、港湾、空港が高度に連携し、広範なエリアにおける速達性、定時性を確保した効率的な物流ネットワーク形成が目標とされています。また、圏央道の周辺においては、災害時の救援活動の円滑化等の複合的な機能を持つ広域的な物流の拠点の整備を促進するとしています。』と修正し、第2パラグラフにします。	○	都市整備局
7	－ 28 頁	18 行目	多様な交流を促す持続性ある都市づくり	文中「多摩都市モノレール新駅」	「新駅」→「新駅（想定）」に変更	多摩都市モノレールの延伸については、まだ事業化決定されていないため ※多摩都市モノレールの新駅の記載がある箇所は全て同様に修正	P1に『※本計画に示す多摩都市モノレールのルート、駅位置については、瑞穂町が想定したものであり、確定したものではありません。』と注釈を追記します。	○	都市整備局

NO	項	行	項 目	意 見 箇 所	修 正 案	補足説明・備考等	対応方針	反映 (○×)	局名
8	－ 39 頁	7 行目	町の中心地形成の考え方	文中「駅西口の土地区画整理事業による整理された街並みと、駅東口の都道166号線の整備による沿道の街並みを保全するとともに、多摩都市モノレールの延伸と一体となった、町の表玄関・・・」	「駅西口の土地区画整理事業による整理された街並みを保全するとともに、多摩都市モノレールの延伸と一体となった、町の表玄関・・・」	多摩都市モノレールの延伸に伴い、都道166号線上への導入も想定されており、「166号線の沿道の街並みの保全」との記載内容が、将来、延伸事業と整合しない可能性があるため	修正案のとおり修正します。	○	都市整備局
9	－ 41 頁	行目	将都市構造	地図上の多摩都市モノレール延伸に関する記載方	・「※ルート、駅位置については瑞穂町が想定したものであり、確定したものではありません」を凡例に追記 ・モノレールのルートが地図によって統一されていないため、P47のように統一する	多摩都市モノレールの延伸については、まだ事業化決定されていないため ※P40, 47, 51, 58, 77, 89, 99, 108の図上も同様に修正	P1に『※本計画に示す多摩都市モノレールのルート、駅位置については、瑞穂町が想定したものであり、確定したものではありません。』と注釈を追記します。 モノレールのルートの地図上の表記については、P47の表記に統一します。	○	都市整備局
10	－ 46 頁	2～3 行目	③ 工業・流通ゾーン	瑞穂町は 圏央道沿線という立地から広域交通利便性が高く、物流施設などの工業・流通業務施設の立地が期待されています。		左記の文章と「都市づくりのグランドデザイン」の表記を同じ節でまとめて記載すると、グランドデザインにおいて「瑞穂町は…期待されている」と記載されていると誤解が生じる恐れがあるため	1段落目を削除します。	○	都市整備局
11	－ 51 頁	行目		■■道路網図■■	図に、「 圏央道 」・「 青梅街道 」の文字を追加	P50に「都市計画道路青3・4・13号（青梅東端線）においては、一部が整備済みですが、圏央道と青梅街道をつなぐ、広域交通へのアクセス道路として、早期整備を関係機関に要望します。」と記載してるため、図との整合を図る。	「圏央道」・「青梅街道」の文字を追加します。	○	都市整備局
12	－ 89 頁	行目		■■地区別構造図（中心地区）■■	図に、「福3・5・17狭山ヶ岡線」の文字を追加	他の都市計画道路は図に記載があるが、「福3・5・17狭山ヶ岡線」のみ記載がない。	『福3・5・17狭山ヶ岡線』の文字を追加します。	○	都市整備局
13	－ 94 頁	24 行目		道路ネットワークの形成による交通の円滑化に向け、街路事業による整備を促進します。	道路ネットワークの形成による交通の円滑化に向け、街路事業による整備を推進・促進します。	都市計画道路福3・5・22号（阿豆佐味線）は町施行（予定）のため推進と標記。	『整備を「推進」します。』に修正します。	○	都市整備局
14	－ 103 頁	6 行目		青3・4・13 青梅東端線	都市計画道路青3・4・13号（青梅東端線）	改定前の文章には都市計画道路青3・4・13号（青梅東端線）と記載してあるため。	『都市計画道路青3・4・13号（青梅東端線）』に修正します。	○	都市整備局
15	－ 103 頁	13 行目		青3・4・13 青梅東端線	都市計画道路青3・4・13号（青梅東端線）	改定前の文章には都市計画道路青3・4・13号（青梅東端線）と記載してあるため。	『都市計画道路青3・4・13号（青梅東端線）』に修正します。	○	都市整備局
16	105 頁	3 行目	第4章 地区別のまちづくりの方針 ②生活道路等 ■■主要生活道路	都道166号瑞穂あきる野八王子線 や主要な生活交通軸となる町道は、（中略）狭あい道路の拡幅、歩道の確保、危険な交差点の改良など、沿道住民の協力を得ながら、道路環境の改善をはかっていきます。	都道166号瑞穂あきる野八王子線 や主要な生活交通軸となる町道は、（中略）狭あい道路の拡幅、歩道の確保、危険な交差点の改良など、沿道住民の協力を得ながら、道路環境の改善をはかっていきます。	都道と同列に記載すると町施行によって都道の道路環境の改善を図るようには勘違いを招くのでは。	『都道166号瑞穂あきる野八王子線については、自転車や歩行者の安全・安心な利用に向けて道路環境の改善を要望していきます。』として、町道の記載と段落を分けます。	△	都市整備局

瑞穂町都市計画マスタープランに係る意見への対応方針

NO	項	行	項 目	意 見 箇 所	修 正 案	補足説明・備考等	対応方針	反映 (○×)	局名
17	－ 106 頁	6 行目		青3・4・13 青梅東端線	都市計画道路青3・4・13号（青梅東端線）	改定前の文章には都市計画道路青3・4・13号（青梅東端線）と記載してあるため。	『都市計画道路青3・4・13号（青梅東端線）』に修正します。	○	都市整備局
18	－ 108 頁	行目		■■地区別構想図（西部地区）■■ 図の「福3・3・29下師岡栗原線」	■■地区別構想図（西部地区）■■ 図の「福3・4・29下師岡栗原線」	都市計画道路の名称に誤り。	「福3・4・29下師岡栗原線」に修正します。	○	都市整備局
19	－ 113 頁	27 行目		都市計画道路福3・4・26（瑞穂飯能線）においては、未整備区間の整備を促進します。	都市計画道路福3・4・26（瑞穂飯能線）においては、未整備区間の整備を 推進します。	都市計画道路福3・4・26（瑞穂飯能線）は町施行のため推進と標記。	『整備を推進します。』に修正します。	○	都市整備局
20	－ 32 頁	行目	① 広域交通利便性を活かした市街地形成と企業誘致の推進	既にフレーム設定されている栗原地区、武蔵地区と異なり、青梅東端線周辺地区、国道16号沿道地区については今後の検討とし、区域マスと整合を図ってはいかがでしょうか。	栗原地区、武蔵地区について産業適地として市街化区域編入をめざすとともに、 青梅東端線周辺地区、国道16号沿道地区の市街化に向けた検討を進め ます。		『産業適地として、栗原地区、武蔵地区の市街化区域編入に向けた取り組みをすすめるとともに、青梅東端線周辺地区、国道16号沿道地区について、市街化区域編入の位置づけに向けて関係機関との調整をすすめます。』と修正します。	○	都市整備局
21	89 － , 頁 117	行目	地区別構想図（中心地区） 地区別構想図（北部地区）	国道16号沿道地区について、「商業・業務施設などの立地誘導をはかる」とありますが、市街化区域編入が前提の内容になるため、確定的な表現を避けた方が良いと考えます。	沿道サービスゾーンとして、交通利便性を生かした、商業・業務施設などの立地誘導 に向けた検討を進める。		『沿道サービスゾーンとして、交通利便性を生かした、商業・業務・沿道サービス施設などの立地誘導をめざす。』と修正します。	○	都市整備局
22	－ 108 頁	行目	地区別構想図（西部地区）	青梅東端線周辺地区について、「新たな産業拠点の形成をはかる」とありますが、市街化区域編入が前提の内容になるため、確定的な表現を避けた方が良いと考えます。	圏央道青梅ICに至近かつ、瑞穂町、青梅市、羽村市の工業地帯を結ぶ主要路線であることから、新たなアクセス道路の整備や青梅市と連携した面的整備に 関する検討を進め 、広域交通利便性の向上、新たな産業拠点の形成を めざす。		修正案のとおり修正します。	○	都市整備局
23	1.4 － 25 頁	10 行目	（3）圏央道の全線開通を見据えた産業形成	■東京都「都市づくりのグランドデザイン」において、瑞穂町は、最先端の研究・学術・ものづくりの拠点の形成が求められている「多摩イノベーション交流ゾーン」に含まれており、圏央道などの広域交通インフラを活かした産業拠点形成が求められています。	■東京都「都市づくりのグランドデザイン」において、「 多摩イノベーション交流ゾーン 」では、 リニア中央新幹線や圏央道、多摩都市モノレールなどの道路・交通ネットワークを生かして、域内外との交流が活発になることや積極的に挑戦しやすい環境が整うことにより、様々な主体が交流し新たなアイデアや創意工夫が生まれ、多様なイノベーションの創出を図る としています。	グランドデザインで示されている内容（p37）をここでは記載し、3パラ目に結び付ける記載としてみてはいかがでしょうか。	修正案のとおり修正します。	○	都市整備局
24	1.4 － 25 頁	16 行目		■今後、産業地への転換が可能な余地もあるため、無秩序な開発を抑制しつつ、圏央道、国道16号からの利便性の高い地域への計画的な産業地形成が求められています。	■今後、産業地への転換が可能な余地もあるため、無秩序な開発を抑制しつつ、圏央道や国道16号、 多摩都市モノレール箱根ヶ崎方面延伸等も見据えながら、道路・交通ネットワークを生かして利便性の高い地域への計画的な産業地形成を図り、多摩イノベーション交流ゾーンの形成に向けた拠点づくりが求められています。	1パラ目を踏まえつつ、瑞穂町が有する立地特性を生かして、イノベーション創出拠点の形成を図っていくという流れにしてみてはいかがでしょうか。	『・瑞穂町は、圏央道青梅インターチェンジに至近で、首都圏の環状道路である国道16号が町内を通り、入間インターチェンジにもアクセスがしやすい広域交通利便性が高い立地にあります。今後の多摩都市モノレール箱根ヶ崎方面延伸なども見据えながら、道路・交通ネットワークを生かして、多摩イノベーション交流ゾーンや物流拠点の形成に向け、利便性の高い地域への計画的な産業地形成をすすめていく必要があります。』と修正し、第3パラグラフとします。	○	都市整備局

NO	項	行	項 目	意 見 箇 所	修 正 案	補足説明・備考等	対応方針	反映 (○×)	局名
25	3.1－46 頁	2 行目	③工業・流通ゾーン	■瑞穂町は、圏央道沿線という立地から広域交通利便性が高く、物流施設などの工業・流通施設の立地が期待されています。また、東京都「都市づくりのグランドデザイン」では、企業、大学、研究機関などの集積を生かすとともにインキュベーション施設により新たな産業を支援し、イノベーションを創出する拠点形成をめざす「多摩イノベーション交流ゾーン」にも含まれています。	■瑞穂町は、圏央道沿線という立地から広域交通利便性が高く、物流施設などの工業・流通施設の立地が期待されています。また、東京都「都市づくりのグランドデザイン」では、企業、大学、研究機関などの集積を生かすとともにインキュベーション施設により新たな産業を支援し、イノベーションを創出する拠点形成をめざす「多摩イノベーション交流ゾーン」にも含まれています。	第3章では、「まちづくりの基本方針」を記載されていると思いますが、③のみ冒頭に第1章で示すような必要性の類の記載がされています。全体的なバランスをとるために削除してはいかがでしょうか。 なお、イノベーション創出の視点を持った記載は非常に先進的であり、必要と思いますので、2パラ目にその視点を追記してはいかがでしょうか。	修正案のとおり修正します。	○	都市整備局
26	46 頁	7 行目		圏央道や国道16号、新青梅街道といった主要幹線道路へのアクセス利便性や土地のまとまりなど立地特性を的確に捉え、地区に適した産業地の方向性を産業振興ビジョンで示すとともに、栗原地区や西原地区、武蔵地区などの新たな産業地形成を進める地区については、土地条件と交通環境が整い、周辺環境への影響にも配慮した計画的な都市基盤性を進めることにより、企業誘致につながる優良な産業地の創出を図ります。 現在、工場などが立地する地区については、工場の用途規制や用途規制や緑化を促進し、地区環境の整備を図るとともに、地区周辺環境とも調和する利便性の高い工業・流通業務地の形成を図ります。	■圏央道や国道16号、新青梅街道といった主要幹線道路へのアクセス利便性や土地のまとまりなど立地特性を的確に捉え、地区に適した産業地の方向性を産業振興ビジョンで示すとともに、栗原地区や西原地区、武蔵地区などの新たな産業地形成を進める地区については、土地条件と交通環境が整い、周辺環境への影響にも配慮した計画的な都市基盤性を進めることにより、企業誘致につながる優良な産業地の創出を図ります。 また、企業誘致の機会を捉え、サテライトオフィスやインキュベーション施設の誘導をはじめとした魅力的なまちづくりの検討を行います。 現在、工場などが立地する地区については、工場の用途規制や用途規制や緑化を促進し、地区環境の整備を図るとともに、地区周辺環境とも調和する利便性の高い工業・流通業務地の形成を図ります。		修正案を踏まえ、『また、企業誘致の機会をとらえ、サテライトオフィスやインキュベーション施設の誘導をはじめとした魅力的なまちづくりをすすめ、イノベーションを創出する「多摩イノベーション交流ゾーン」に適した拠点の形成をめざします。』と修正します。	○	都市整備局
27	－ 1 頁	4 行目	(2)都市計画マスタープランの見直しの必要性	東京都「多摩部19都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」が改定されたことから…	この素案の公表時期が区域マス改定前の場合は、その旨を注釈等で記載するなど、書き方の工夫が必要です。		表紙に『※上位計画である「瑞穂町長期総合計画」、東京都「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」の改定内容や関連計画との整合をはかりながら、皆様から寄せられた意見を参考に、この素案を適宜修正し、瑞穂町都市計画審議会での審議を経て、瑞穂町都市計画マスタープラン（案）を策定していきます。』と記述します。	○	都市整備局